

教育委員会の動き

令和3年第3回市議会定例会において同意を得て、宮下英雄委員が再任されました。2期目の任期は令和3年10月1日から令和7年9月30日まで4年間です。



宮下委員

【略歴】区立小学校教諭、羽村市教育委員会参事・指導室長、小学校長、聖徳大学人文学部児童学

科教授、同大学院教職研究科教授。現在は市教育委員会教育長職務代理者。元文部科学省その道の達人事業派遣講師（おもしろ科学の達人）、全国小学校理科研究協議会元会長・顧問、全国連合小学校校長会現職教育委員会元委員長、東京都教育委員会、科学的素養の育成委員会」元委員長ほか、市の審議会等の役職を歴任。

教育委員としての2期目を迎えて：宮下英雄

あっという間の1期4年が終了。そんな気持ちでいっぱいの中、2期目の辞令を拝受しました。

この4年間は、かつては考えられなかった、予測しなかった出来事が波のように押し寄せてきま

した。私は流されないよう、必死に市の教育施策を考えていました。結果、事務局に厳しい指摘もさせていただきましたが、それは教育委員としての使命感と責任感を強く感じていたからです。

さて、「不易と流行（ふえきとりゅうこう）」という言葉は教育界ではよく聞きます。「社会が変化しても時代を超えて変わらない価値あるものを身に付けてほしい」と考えるのが「教育」である「社会の変化に無関心であってはならず、時代の変化とともに変える必要のあることには柔軟に対応していこう」と考えるのが「教育」である」ということを示唆している言葉です。今後は「不易と流行」を見極め、時代を拓く（ひら）いていく人材の育成という視点が重要になります。

「不易と流行」は、教育行政を司る事務局職員にも当てはまります。教育行政の推進には、勇気と努力と発想力が必要です。しかし、一部には、「自分の任期中（在籍中）はそのままでもいいや。次の人が変えれば」という雰囲気は無きにもあらず。市の教育行政をわれわれ教育委員と一緒に考え、推進していける、実力ある職員の存在が重要です。

令和に変わり、学習指導要領とGIGA構想、そして経験したことのないコロナ禍対策への取り組みが求められています。この変革へ取り組んできた経験値を私の教育委員としての糧に考えていますので、一端を述べます。

学習指導要領の改訂とコロナ禍

既に、学校では新教育課程に従って実践が始まっています。将来の予測が困難な時代において一人ひとりの子どもたちが自分の良さや可能性を認識でき、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な力を育むことが求められて

います。しかし、実施初年度から「予測困難な時代」の現実に入。コロナ禍の感染症拡大に伴う全国一斉の学校臨時休業、再開後の分散登校や時差登校の実施など、学校は日々、努力を余儀なくされ、オンライン授業への挑戦も始まりました。

3年ぶりに、教育委員と校長会との意見交換会を実施することができました。各学校の情報を直接知ることは、教育委員にとって必要不可欠なものです。そこでの話題の一つに、これまで学校に送付されたコロナ関連の国・東京都、市教育委員会等が発出する通知やガイドライン等が膨大であ

総合教育会議を開催しました

【総合教育会議】は、市長と教育委員会が地域の教育課題等について意見交換や協議を行います。令和3年度は3回開催しました。

《第1回》令和3年7月2日（金）【議題】①今後の進め方、②学力向上の取り組み。当日は会議の前に並木市長及び教育委員等が、市立第六小学校のタブレット端末を使用した授業を視察しました。国のGIGAスクール構想により全国の公立の小・中学校へ一人一台、パソコンやタブレット端末が配備されています。教育委員からは「子どもたちが自由に使いこなしている様子を見て

たが、さらに情報活用能力を育成し、学習指導要領が目指しているところに到達しているところはない」との意見がありました。並木市長からは「年齢に応じた基本的な学力が身につけていくことで世の中の仕組みが理解できるようになり、より豊かな人間関係も築けるようになり、一回りも二回りも大きく成長していけると思う。学習指導要領の改訂により新たな施策が次々打ち出され、学習環境を整えていく必要がある」と思っているが、学校及び教育委員会には今の環境を最大限に活用し工夫を重ね、効果的な取り組みを進めて

つたとありました。学校の管理職はその内容を把握し、教職員に正確に伝え、意識を統一することになりましたので、多くの時間を充てられたと思います。通知の十分な理解は教育委員にも同様な責務があります。国や都の政策等、市が有効に活用できる情報を逃してはなりませんし、保護者や地域へ必要な情報をタイムリーに発信することも必要です。

文書の取扱い一つをとっても、行政にはスピードと正確さが求められます。「スピード」には危機意識に支えられた判断力、決断力と発信力が勝負ですが、残念ながら「もう一回」との発言がありました。

《第2回》令和3年10月18日（月）【議題】①市立学校における不登校対策の取り組み、②教育委員報告「学びの継続を促す」公立中学校の夜間学級を視察して。当日は市立下里中学校の山浦校長から、同校の不登校対策の取り組みが報告されました。山浦校長は「不登校対策の取り組みは決して特別なことではない」と前置きされながら、「3年間、重点的に不登校生徒に対する教員の意識改革に取り組みしてきたことでさらに生徒に寄り添えるようになってきた」「教室以外の部屋を使った「別室登校」対応も教員には負担がかかるが理解してもらい、進め

は、学校行事の中止、精選、さらに、準備の時数を各教科指導に振り替えたことにあります。しかし、授業時数の確保は教育課程の量的な問題をクリアしただけで、質的な問題には多くの課題が残されており、文部科学省も「子どもにも各教科の評価規準を達成する学力を身に付けさせることができるか」を学びの保障の中で言及しています。

【もう一つの大きな課題「特別活動」】義務教育における教育目標は「人格形成」です。人格形成のためには各教科等の学習を通じた「集団の中の協働」が欠かせません。学校は人と人との関わり合う一つの社会であり、特別活動を通して学校における生活の向上に努め、社会的で文化的な活動に取り組み、多様な他者と関わり合っ

てよりよく生きることを学ぶことが目標にあります。授業時数を安易に教科に振り替えることによつてコロナ禍の教育課程を解決したとは言えません。一生に一度の経験ができなかった児童・生徒の気持ちを考えますと、今後の教育課程の編成と実施に当たっては教育委員会と学校は前向きな検討が求められています。これからは是非々の教育の論理を踏まえ、市の将来を担う子どもたち

められることになり、今回はこの点に着目し視察を行ったものです。教育委員からは「授業を見て、学びたい」と本人と「学んでほしい」という教師の熱意のぶつかり合いに驚いた」との感想がありました。並木市長からは、「不登校対策は子どもたちの現状をきっちり把握し、改善の道を探ってもらいたい」「視察の報告を聞き、様々な事情により既卒後に「学び直し」を望む方がいた時に夜間学級も一つの出会いの場になると思う」との発言がありました。

《第3回》令和4年2月9日（水）【議題】①令和3年度日程変更、②「東久留米市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の

改定。昨年の12月28日に就任された富田市長により召集された3回目の総合教育会議では、大綱の改定が議題とされました。現行の大綱が制定から7年経過していることか

ら、市長から改定を行いたいとの発言があり、改定の方角性に対して教育委員から質疑や意見等があり、次回の会議で案が示されることになりました。富田市長は、今後の総合教育会議について、「この会議をダイナミックに運営し、教育委員会との連携を深め、市の教育行政の推進に生かしていきたい」と抱負を述べられました。

《期間》令和3年第7回定例会から令和4年第2回臨時会まで

《案件》委員・学校医等の委嘱2件、規則等の改正1件、予算3件、計画の策定2件、生徒表彰1件、教育長、校長・副校長等の人事4件、教育長の臨時代理1件（全議案が承認または同意されました）。

《審議結果》

《審議結果》

第2次特別支援教育推進計画まとめ

児童・生徒の自立と社会参加の力の醸成を目指して

市教育委員会では、令和4年度から3年間を計画期間とする「第2次特別支援教育推進計画」を策定しました。「教育的ニーズに応じた切れ目のない指導・支援体制の充実」「一人一人の子どもの特性に応じた質の高い教育活動の推進」「共生社会の実現に向けた、家庭や地域との連携」の3本を指針としています。詳しくは指導室☎470・7781へ。



富田市長

「自分のことを何か言われているようで気になる…」 「勉強に集中できない…」 学校生活（いじめや勉強）のことは一人で悩まないで相談しましょう ◎中央相談室（教育センター内）☎473・3667 ◎滝山相談室（西部地域センター内）☎475・8909